

資料：博物館の公文書から

～ まちの様子がわかる「斜里町事務報告」～

知床博物館には明治大正期の古写真、私文書などとならんで、戸長役場以来の公文書が多数保存されています。明治20年代以後戦前までの文書372については目録が作成されています。古いものは明治20年代から大正4年に至る「斜里外四ヶ村戸長役場文書」87点で、町史の元祖といえる「斜里郡斜里村蒼瑠村止別村朱円村遠音別村村誌」、文化4年から5年にかけての冬に起きた津軽藩士殉難事件で死亡した藩士の墓所の位置を図示した「明治26年共有地一件綴」、「明治28年以降越川駅通所文書」など貴重文献が含まれます。

戦後のものでは斜里市街地から日の出までを結んだ「殖民軌道関係」、海外からの帰還者を迎え入れた「引揚者住宅関係綴」、現在は知床百平米運動地となっている「38.10.25現在 岩宇別写真集」など興味深い文書を数多く保存しています。

今回は「斜里町事務報告」を紹介します。

これは現在の町政報告にあたる内容を持つもので、1年間の斜里のできごとを役場でまとめたものです。博物館には昭和3年から同19年（1928-44）と同20年から30年（1945-55）に至る2冊の綴りがあり、年によって詳しさに差がありますが、その年の景気動向や農業の作況、漁獲状況、そして議員や職員名簿が掲載されています。印象的なのは戦後間もない年の報告で、それまでのカタカナまじりの文語調から平仮名まじりのやさしい口語調に改められ、戦後の苦境を素直に綴り、戦時中の圧迫から一気に開放された感じが感じられます。生活状況も具体的に述べられ、味噌・醤油の配給が欠配なしになったこと、一方、ストーブやゴム長靴は需要に供給が追いつかないことがわかります。翌22年は地方自治法が制定され、斜里町の新しい門出に心を引き締め自治体として歩み始める気持ちが伝わってくるようです。

博物館で保管している文書類は、かつて『斜里町史』（昭和30年）や『斜里町史第二巻』（昭和45年）、『斜里農協史』（昭和42年）、『斜里漁業史』（昭和54年刊）の刊行に利用されてきました。地方の歴史を記述する場合の困難は、現存する資料が少ないことに集約されます。開拓時代の様子は『殖民状況報文』や『殖民公報』を頼りとする場合も多いなか、当館保管の文書類は、人々の仕事や生活など地域の姿を具体的に伝えるこのうえなく貴重な資料となっています。（宇仁義和）



年末年始休館のお知らせ

12月30日(月)～1月6日(月)は休館致します。
新年は1月7日(火)から開館です。

カツラ巨大切株移設！

11月15日、野外観察園にカツラの巨大な切株がお目見えしました。これは博物館本館の玄関に展示してある開拓モニュメントと兄弟にあたり、昭和53年月日に斜里町の日の出の国有林から持ち出された2つの伐根のうちのひとつです。あまりに大きすぎるため展示室に置くことができず、開館当時から野外観察園に安置しておりましたが、このたび「しゃくなげ山」に接する場所に移設したものです。

直径約1.5m、幹の周囲465・、高さ280・という堂々とした大きさに「わらドーム」とならんで新しい名物になりそうです。

木々の葉が落ち、雪化粧した山々がさらに目をひくようになりました。寒くなり、道ばたの落ち葉も少し凍っています。これからが本格的な冬の始まり。雪が降るのももうじきです。（秋山）

発行 斜里町立知床博物館協力会 2002.11.15
099-4113
北海道斜里郡斜里町本町49 斜里町立知床博物館内
TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257
<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>